

## 事業再評価シート

事業名	社会資本整備総合交付金		
箇所名	一般県道木脇高岡線（太田原・宮王丸工区）	市町村名	国富町・宮崎市

(上段は前回、下段は今回)

実施方法	<input type="checkbox"/> 補助 <input checked="" type="checkbox"/> 交付金 <input type="checkbox"/> 県単			
事業期間	採択年度	再評価年度	完了予定年度	
	平成9年度	平成28年度 令和3年度	令和8年度 令和10年度	
事業進捗	全体事業費 (百万円)	既投資額 (百万円)	進捗率 (%)	
	4,600	1,623	事業費	用地
	5,970	3,016	35.3	90.1
再評価の概要	対象選定理由		事業効果 (B/C)	対応方針原案
	再評価後5年経過		1.5	継続
	再評価後5年経過		1.2	継続

全体計画
<p>一般県道木脇高岡線は、国富町と宮崎市高岡町を南北に結ぶ延長約7.0kmの路線である。          本工区は、国富町本庄において西から東に流れる本庄川を南北に渡り、県道宮崎須木線と県道南俣宮崎線を結ぶ約2.2kmのバイパス計画である。          これにより、未整備区間が解消され、東九州自動車道へのアクセス機能を強化するとともに、周辺道路の渋滞緩和を図るものである。</p>

事業概要
<p>全体延長 L = 2,230m          道路幅員 W = 6.5 (11.25) m          主要構造物          (仮称) 宮王丸高架橋 L = 44.0m          (仮称) 宮王丸橋 (本庄川) L = 244.5m          明久川橋 (明久川) L = 21.7m</p>

事業目的
<p>○対象事業の目的、必要性</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>東九州自動車道へのアクセス機能の強化</li> <li>周辺道路の渋滞緩和</li> </ul> <p>○他事業との関連性・事業による効果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>令和元年度に開通した国富スマートICと合わせて、東九州自動車道へのアクセスが強化され、生活の利便性の向上、また、産業活動の活性化に繋がり地域経済の発展に寄与する。</li> </ul> <p>○事業を継続する必要性</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>未整備区間のバイパス整備であることから、整備効果を発現するためには当該工区の完了が不可欠であり、事業継続が必要である。</li> </ul>

### 事業の進捗状況

#### ○現在の事業進捗、整備効果の発現状況

- ・宮王丸工区において710mを部分供用している。
- ・今年度は、太田原工区において（仮称）宮王丸高架橋の橋梁上部工事を行い、宮王丸工区においては盛土工事を進めている。

#### ○今後の事業進捗の見込み

- ・（仮称）宮王丸高架橋が令和4年中の完成予定、（仮称）宮王丸橋を令和4年中に着手予定であり、令和10年度の事業完了予定である。

#### ○事業が長期化している理由

- ・太田原工区においては、河川内民地の場所の特定等や相続処理、また、地権者からの理解を得ることに時間を要した。
- ・宮王丸工区においては、字図混乱地が存在し、その整理および取得までに時間を要した。また、行方不明者や法定相続人が多数に及ぶ土地など、調査や交渉等に時間を要した。

### 社会情勢等の変化

#### ○事業を取り巻く社会情勢等の変化

- ・令和元年10月：消費税が10%に引き上げ
- ・令和元年10月：国富スマートICが開通
- ・令和2年9月：新たな本庄橋が開通
- ・公共工事設計労務単価が9年連続の引き上げ

#### ○環境保全に対する取り組み

- ・他工事で発生した建設発生土の有効活用、また、盛土法面の緑化を行う。

### 事業効果の分析

#### ○費用対効果

$$B/C = 1.2$$

#### ○事業を継続することの事業効果分析

- ・東九州自動車道へのアクセス機能が向上し、生活の利便性の向上、産業活動の活性化が促進され、地域経済の発展に寄与するとともに周辺道路の渋滞緩和も期待される。

### コスト縮減

#### ○コスト縮減の取り組み

- ・これまで、他事業にて発生する建設発生土を盛土材として再利用してコスト縮減を図ってきた。今後も、盛土材につきましては、引き続き、他事業の建設発生土と連携を図りながら、コスト縮減に努めていく。

### 代替案の可能性

- ・現計画は、事業区間北側の町道を利用し、県道高鍋高岡線に接続できるルートとなっており、交通ネットワークを形成する上で最適なルートとなっている。
- ・全体の用地取得率も約9割を超え、太田原工区では既に盛土工事を施工しており、宮王丸工区では710mを供用するなど、橋梁前後の線形は確定していることから、現計画が妥当である。

以上の2点から代替案の可能性はない。

### 対応方針

継 続

